

“楽しむ科学コンクール”プロジェクトの選考審査の経緯ならびに結果のご報告

本年度から始まる第1回“楽しむ科学コンクール”では、昨年プロジェクトを公募し多数の応募がございましたが、慎重な審査を行い、このたび本年度に実際に試行していただくプロジェクトの選考が完了いたしましたので、以下に審査過程の概要をご報告いたします。

今回の公募は昨年12月22日に締め切られましたが、約2ヶ月間の公募期間中に計30件の応募がありました。この30件に対して本年1月18日に、書面による第一次審査を行い、下記の東京大学教授7名による投票により上位9件を選考しました。

< 第一次審査の選考委員（五十音順） >

岡村 定矩（天文学）、駒宮 幸男（物理学）、長谷川 壽一（生命環境学）、福田 裕穂（生物科学）、森 裕司（動物行動学）、山内 薫（化学）、山本 智（物理学）

第2次審査はこの9件を対象として、2月24日に東京大学において行いました。各プロジェクトの代表者にご参集頂き、基礎となるアイデアと計画に関して代表者からプレゼンテーションとそれに続く質疑応答（あわせて30分）を行っていただきました。

当日の審査結果をもとに、下記の選考委員が慎重に審議を重ね、第1回楽しむ科学コンクールの採択課題を選考いたしました。

< 第2次審査の選考委員（五十音順） >

秋山 仁（東海大学研究所次長・平成基礎科学財団理事）
海部 宣男（国立天文台台長・平成基礎科学財団理事）
朽津 耕三（東京大学名誉教授）
駒宮 幸男（東京大学教授・平成基礎科学財団理事）
武田 暁（東京大学・東北大学名誉教授・平成基礎科学財団理事）
森 裕司（東京大学教授・平成基礎科学財団理事）
森 亘（元東京大学総長・平成基礎科学財団評議員）

第一次および第二次の審査を経て、今回は最終的に以下の2件が採択されました。

（1）長時間生命現象の記録とその映像を使った探求活動の展開

代表：小林設郎氏 静岡県立長泉高等学校 教諭

（2）ミタカ星空プロジェクト

代表：高梨直紘氏 東京大学大学院生（理学系研究科天文学専攻博士課程）

(1)は、身近なパソコンカメラを用いて自然界における様々な変化を長期間にわたって映像記録に収めようとするもので、時間の流れを短縮して見る再生映像は美しいばかりでなく示唆に富んでいます。プロジェクトには高校生も参加しており、地道な取り組みを通じて生態や環境に関する重要かつ新鮮な基礎的データが得られるものと期待されます。

(2)は、天文学専攻の大学院生が中心となって、国立天文台のある三鷹地域の様々な市民団体との密接な連携協力のもと実際の天体観測などを通じて、現代天文学の知識を異なる立場の人達がともに楽しみながら学習しようというものです。市民とともに科学する楽しみを広げていこうとする姿勢は、地域に密着した教育研究活動のモデルとしても評価されます。

さて今回は初めての公募と審査ということもあって、本コンクールの意図するところについての事前の広報が必ずしも十分ではなかったかもしれません。“楽しむ科学コンクール”は以下の趣旨で創設されましたので、最後にもう一度あらためてお知らせしておきます。今年の秋には第2回の公募を行う予定ですが、今年度を上回るたくさんのプロジェクト応募があることを今から心待ちにしております。

“楽しむ科学コンクール”の趣旨

科学の探究には終わりがなく、極めれば極めるほどより深奥な世界が広がっていきます。また、科学は意外性に満ちあふれています。基礎科学はその宝庫であり、だから面白いのです。この醍醐味をぜひ多くの方々に体感していただきたい。これが“楽しむ科学コンクール”創設の動機です。基礎科学とくに広い意味の理学(自然科学)分野の研究に対する興味と関心を広く呼び起こす目的で、研究(または教育)プロジェクトを公募し、厳正な審査を経て採択されたプロジェクトには実施費用(上限100万円)を支給してプロジェクトを実施していただきます。一年後に成果を発表いただき、とくに優秀なものに対しては顕彰いたします。応募は一人でもグループでも結構です。代表者が研究・教育分野の専門家である必要もなければ学位をもっている必要もありません。プロジェクトの代表者が20歳以上であることだけが応募資格です。皆さまからの独創的なアイデアに満ちた応募をお待ちしております。

(本コンクールの実施母体は、国立大学法人東京大学理学部及び同素粒子物理国際研究センター、並びに特定公益増進法人平成基礎科学財団です)